

令和8年4月21日

発注者責任を果たすための今後の建設生産・管理システムのあり方に関する懇談会
建設生産・管理システム部会(令和8年度 第1回)

資料4

今後の総合評価の検討の方向性

本検討の目的

- 国土交通省の入札契約において、平成17年の品確法施行以降、運用している総合評価落札方式について、課題を明確にし、より品質向上に寄与する仕組みとしていくことが必要。
- このため今回、総合評価を検証・評価した上で、「品質向上」に資する総合評価のあり方、建設生産・管理システムのあり方を検討する

【検証・評価の観点】

＜技術提案評価型＞

- ①求める技術提案により品質向上が図られているか

＜施工能力評価型＞

- ②施工能力評価により品質向上が図られているか

＜総合評価全体（技術提案評価型・施工能力評価型）＞

- ③工事目的物の品質確保に向け、入札段階で技術力確認等に受発注者共に負荷がかかりすぎているか

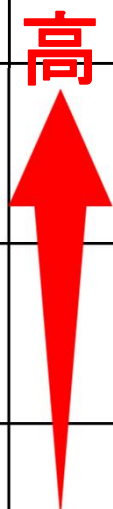
落札者の技術点・価格点 <技術提案評価型・施工能力評価型>

- 施工能力評価型(I型・II型)、技術提案評価型(S型)は、「最高得点・最低価格」が落札する割合が多い。
- WTO技術提案評価型(S型)は、「最高得点・最低価格以外」の落札が多く、価格で差が付きにくい特性があると推察される。
- 総合評価タイプによらず、**最高得点者の落札が8割以上**

■総合評価タイプ別の落札者の技術評価点と価格の関係性(R6)

(単位:%)

総合評価 落札方式のタイプ	技術評価点 入札価格	最高得点		最高得点以外			全体	
		最低価格	最低価格 以外		最低価格	最低価格 以外		
技術提案 評価	WTO	96	33	63	4	1	3	100
	S型	91	51	40	8	7	1	100
施工能力 評価	I型	91	59	32	9	6	3	100
	II型	88	59	29	12	9	3	100

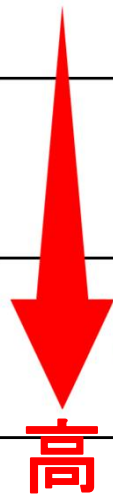


※8地方整備局の令和6年度に契約した工事のうち、港湾・空港関係工事、価格競争を除く工事を対象。四捨五入の関係で合計が必ずしも100とならない。

○技術提案評価と施工能力評価を比較すると、**施工能力評価の方が技術提案評価よりも最低価格での落札の割合が高い**

■総合評価タイプ別の落札者の技術評価点と価格の関係性(R6) (単位:%)

総合評価 落札方式のタイプ	入札価格 技術評価点	最低価格		最低価格以外			全体	
		最高得点	最高得点 以外	最高得点	最高得点 以外	最高得点 以外		
技術提案 評価	WTO	34	33	1	66	63	3	100
	S型	58	51	7	41	40	1	100
施工能力 評価	I型	65	59	6	35	32	3	100
	II型	68	59	9	32	29	3	100



※8地方整備局の令和6年度に契約した工事のうち、港湾・空港関係工事、価格競争を除く工事を対象。四捨五入の関係で合計が必ずしも100とならない。

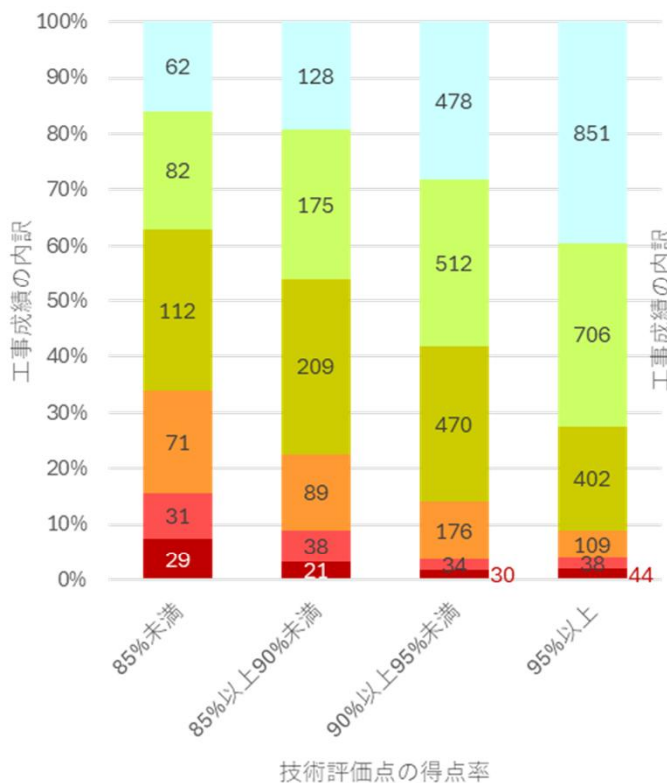
技術評価点の得点率と工事成績の関係 <技術提案評価型・施工能力評価型>

○総合評価を実施し、技術力(工事成績等の技術評価点)を考慮した競争入札により、品質が低い工事等の発生の未然回避(品質向上)に寄与

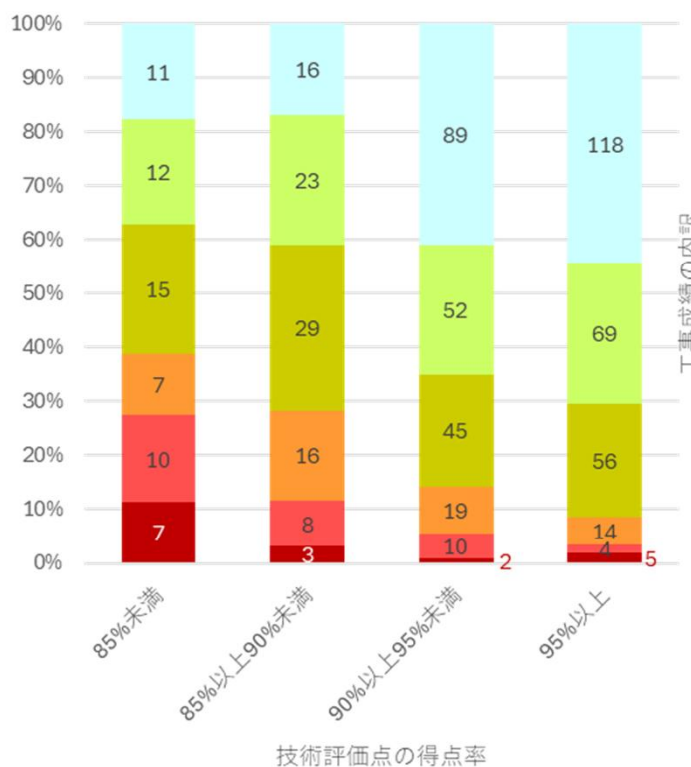
○「入札時の技術評価点」が高いほど、**77点未満**は減少傾向

■総合評価の技術評価点と品質(工事成績)の関係

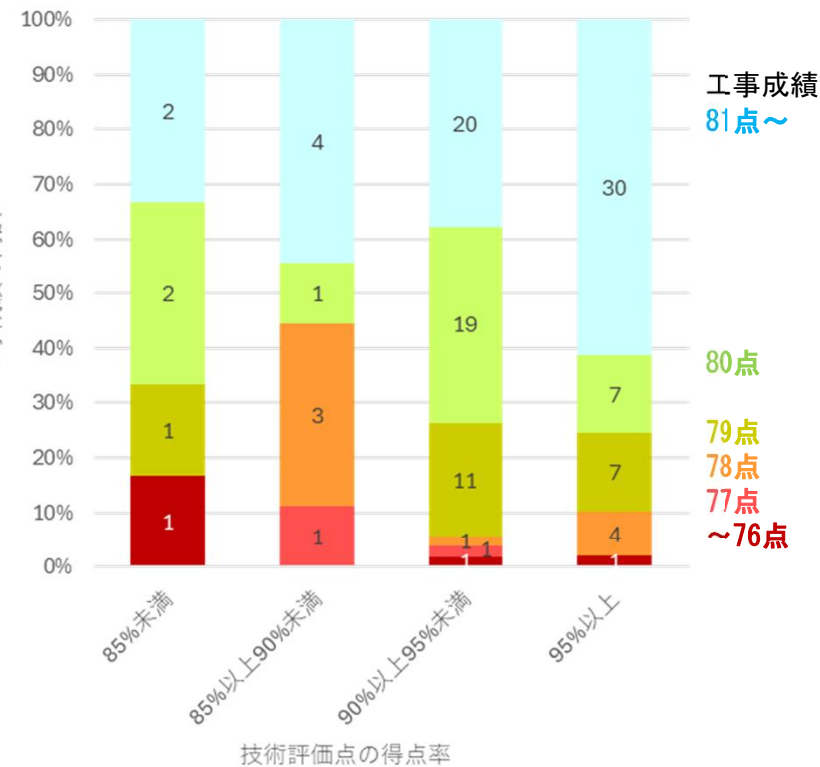
施工能力評価型Ⅱ型



施工能力評価型Ⅰ型



技術提案評価型



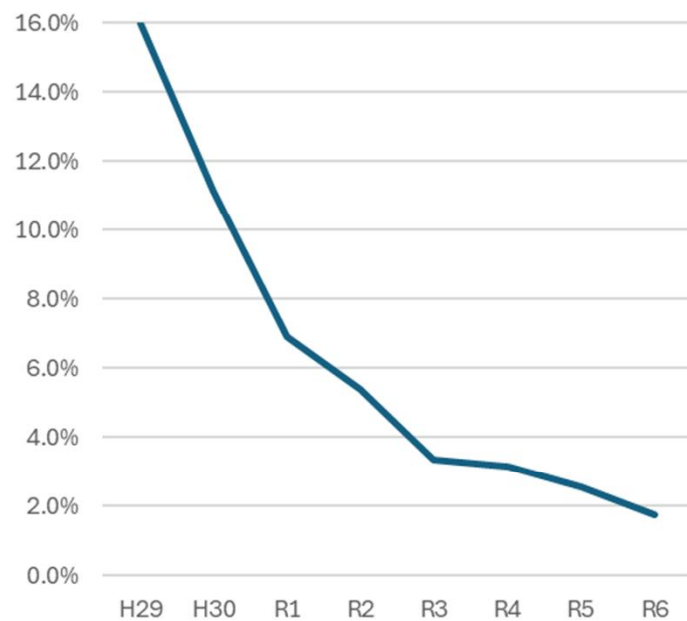
※R5年度に契約を締結しR6年度までに完成した工事(10地整、港湾・空港除く)工事 5,655件を対象に整理

低成績工事の減少 <技術提案評価型・施工能力評価型>

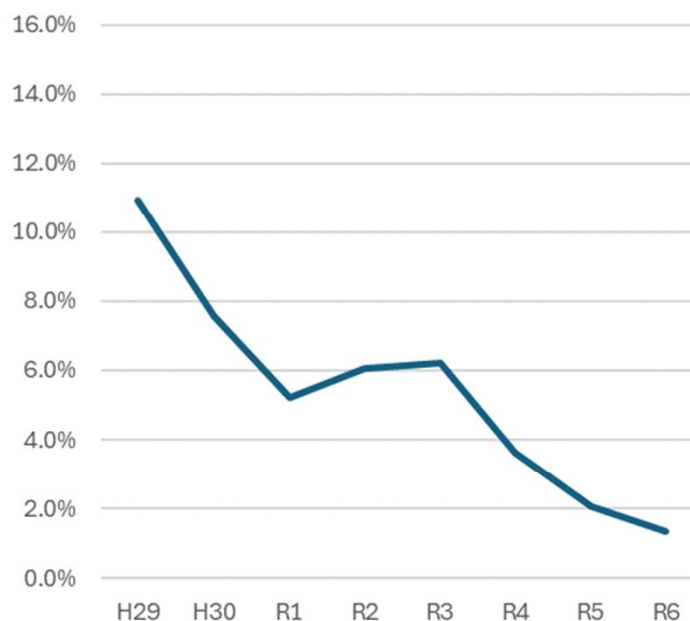
○成績下位(77点未満)の工事率は減少傾向にある。
 ○総合評価を含む現行システムにおいて、品質が低い工事等が減少していることが示唆される

■工事成績下位層(評点77点未満)の割合の推移

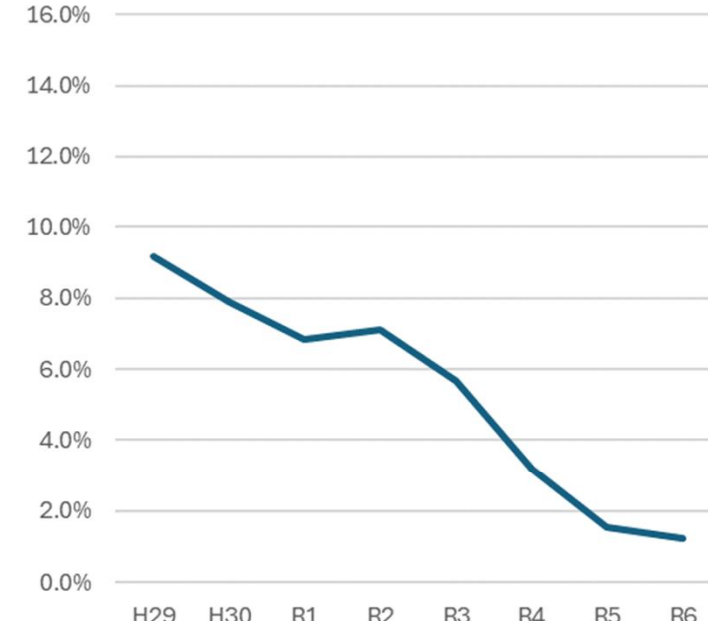
施工能力評価型Ⅱ型



施工能力評価型Ⅰ型



技術提案評価型



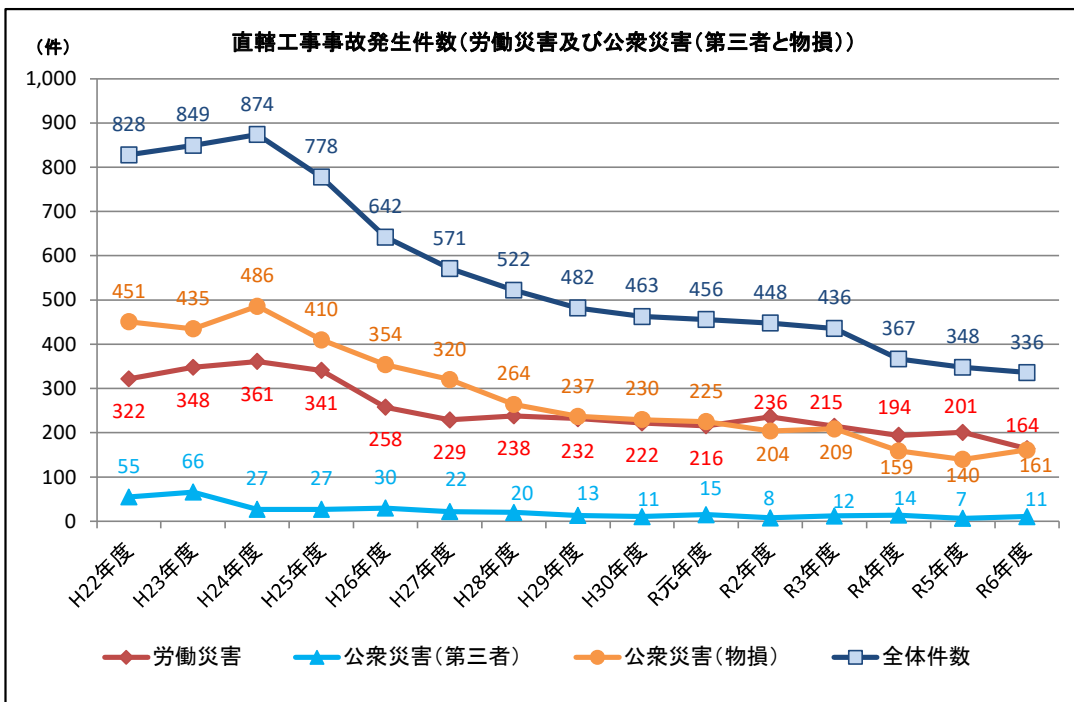
※各年度に契約を締結しR6年度までに完成した工事(10地整、港湾・空港除く)を対象に整理

安全性の向上(事故等 件数) <工事全体>

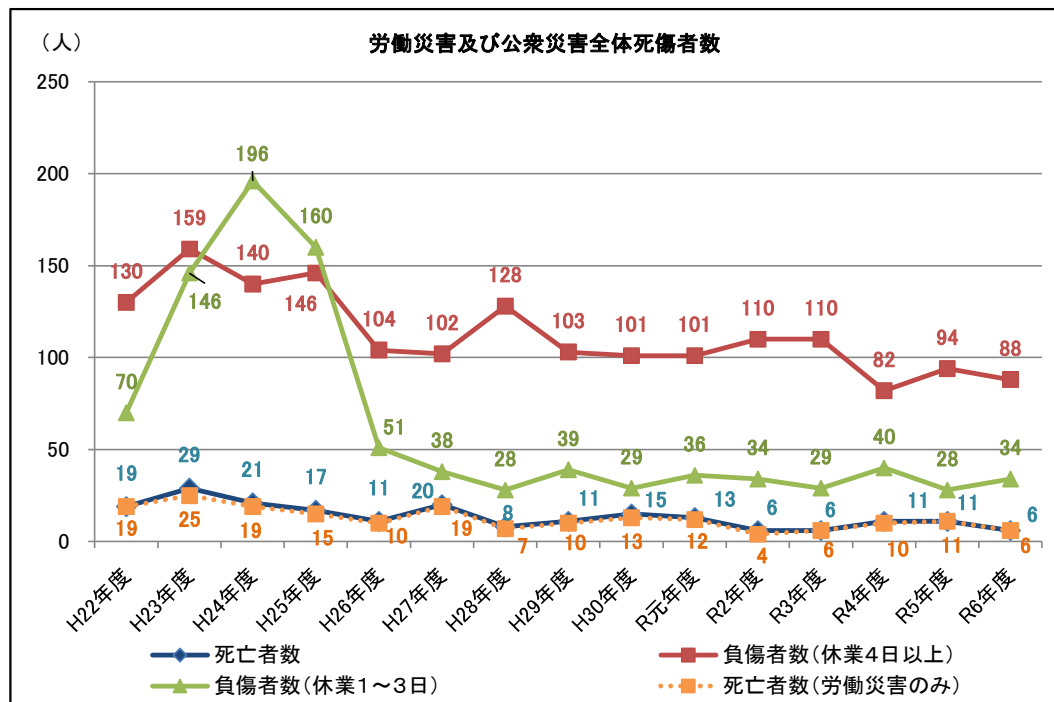
令和6年度の事故発生状況

- 労働災害及び公衆災害による事故発生件数は336件であり、H24年から12年間連続で減少傾向にある。
- 労働災害の事故発生件数は164件であり、昨年度より37件減少している。
- 労働災害及び公衆災害による死亡者数は6人であり、昨年度から5件減少している。
- 負傷者数(休業4日以上)は88人であり、昨年度より6人減少している。

直轄工事事故発生件数(労働災害及び公衆災害) 平成22年度～令和6年度



直轄工事死傷者数(労働災害及び公衆災害) 平成22年度～令和6年度



労働災害：労働者の就業に係る建設物、設備、原材料、ガス、蒸気、粉じん等、又は作業行動その他業務に起因して、労働者が負傷し、疾病にかかり、又は死亡することをいう。

公衆災害：当該工事の関係者以外の第三者（公衆）の生命、身体及び財産に関する危害並びに迷惑のことをいう。

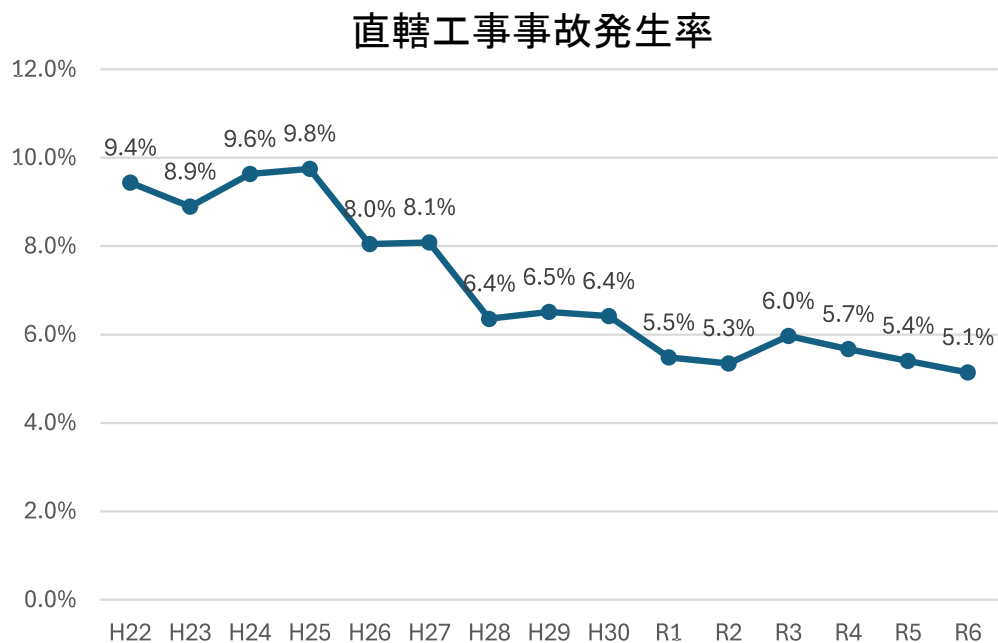
死亡者：労働災害のため死亡したもの（即死のほか負傷が原因で死亡したものを含む。）をいう。

負傷者：当該災害により負傷し、医師の治療を受けた、又は受ける必要のあるものをいう。

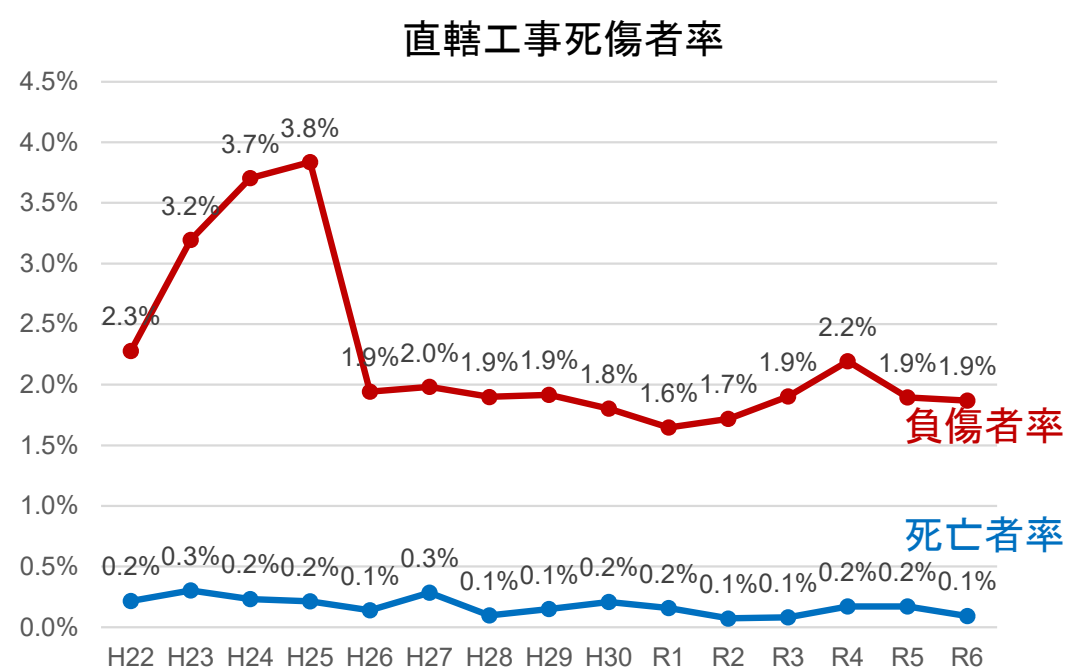
安全性の向上(事故等 率) <工事全体>

- 労働災害及び公衆災害による事故発生率は減少傾向にある。
- 死亡者率は0.2%程度で横ばい。負傷者率はH26以降、2%前後で横ばい。

直轄工事事故発生率(労働災害及び公衆災害)
平成22年度～令和6年度



直轄工事死傷者率(労働災害及び公衆災害)
平成22年度～令和6年度

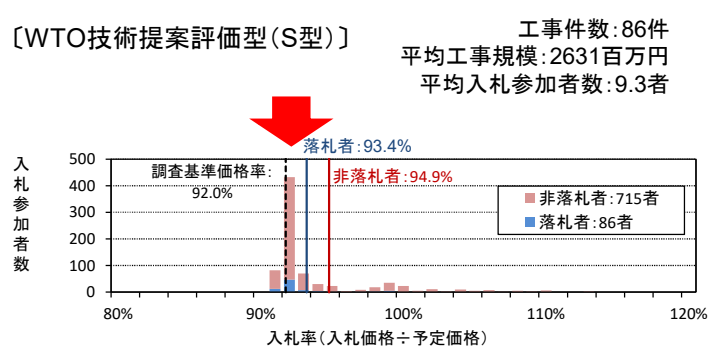
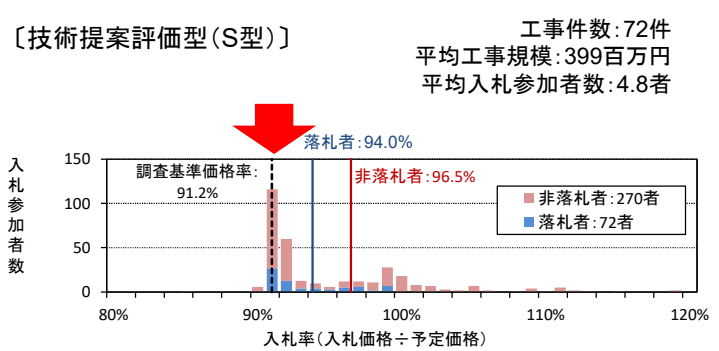
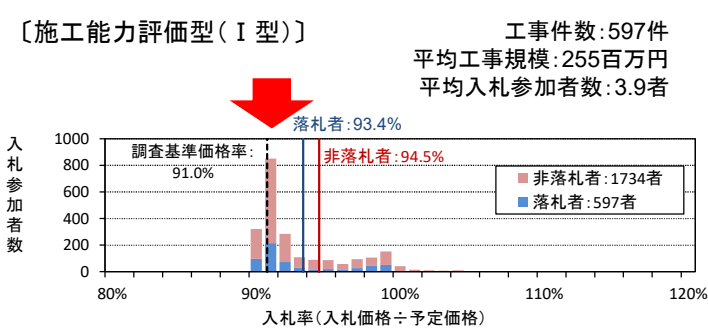
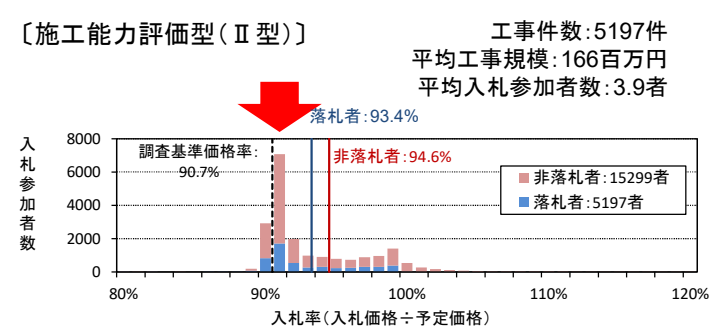
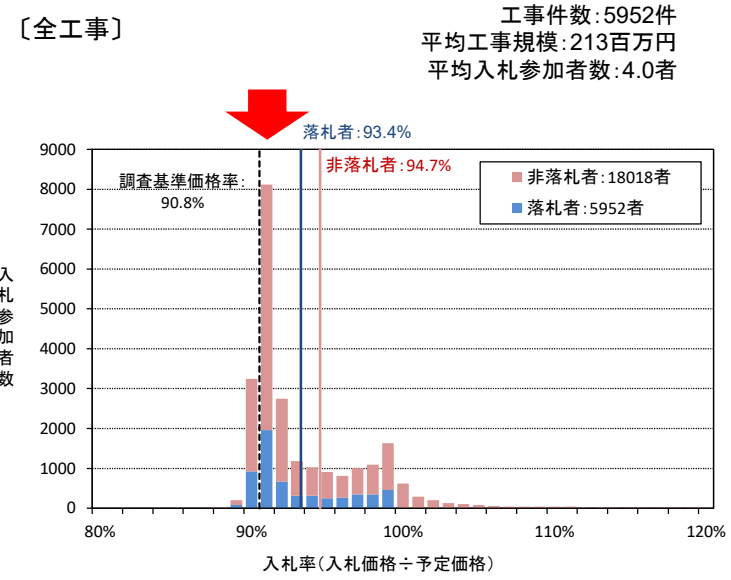


※比率は事故件数または死傷者数を該当年の工事契約件数で除した数値。
 事故件数、死傷者数の対象は10地整等、港湾・空港除く工事（安全啓発リーフレット（令和7年度版）より引用）。
 工事契約件数の対象は8地整、港湾・空港除く工事（国土交通省直轄工事等契約関係資料から引用）。

○どのタイプにおいても、調査基準価格直上が入札の最頻値であり、一方で予定価格付近での入札はほとんど見られない。
 ○応札者が調査基準価格の推定に労力を割く状況となっている可能性がある。

■入札率の分布〔令和6年度（タイプ別）〕

↓ : 最頻値



注1) 8地方整備局の工事のうち、下記を除く工事を対象
 ・港湾・空港関係工事
 ・価格競争
 ・調査基準価格が設定されていない工事

注2) 入札参加者数は、競争参加者数から無効・辞退等を除く。
 注3) 平均工事規模は、予定価格（税込み）とする。

データ分析 確認できている事項 まとめ

データから、以下について確認できている。

○総合評価の技術評価点が高い者が落札している傾向。

特に技術提案評価型で傾向が強い。施工能力評価は最低価格での落札者の比率が高い。

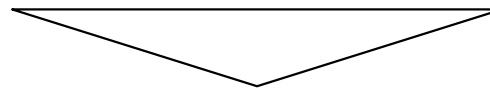
○成績について

・近年、低い成績は減少傾向。

・入札時の技術評価点が高いほど、低い成績は減少傾向。

○近年、事故等は減少傾向。

○一方、総合評価のどのタイプにおいても、調査基準価格直上が入札の最頻値。



総合評価落札方式で価格及び技術力を評価することにより、公共工事の品質確保に一定の成果。

しかし、総合評価で確認している技術力(技術提案・施工能力)が品質向上に寄与しているか、因果関係が明確に確認できていない。

①求める技術提案により品質向上が図られているか

背景・方向性

- 現行の総合評価落札方式へ改正した際、総合評価落札方式（技術提案評価型）は技術提案による品質向上を目指していた。
- 現状においては、技術提案の内容と成果（品質）との関係性が十分に検証されておらず、提案が品質向上に貢献しているのかが明確でない。
- このため、技術提案の実態について、今後データ等を元に、確認手法も含め検討していく（例：受発注者へのアンケート等）。

- 各地方整備局等に対し、工事品質の向上に寄与したテーマの好事例を聴取
- 各現場の課題等に応じ、技術提案テーマを設定することで、品質向上等につながる

トンネルの掘削時の安定確保

■課題

トンネル終点側坑口部DⅢパターン(低土被りの支保パターン)において、設計では全断面早期閉合となっているため、掘削時の安定確保等が必要

■技術提案テーマ

- ・終点側坑口付近掘削時の安定確保を図るための工夫について
- ・坑内変位抑制に関する工夫について

■採用した技術提案による結果

技術提案を用いて施工したDⅢパターン(低土被りの支保パターン)は、内空変位・天端沈下ともに数値が低い結果となっており、変位抑制され安全性や品質向上が図られた

許容変位一覧表

測点・測点	支保パターン	内空変位				天端沈下	
		1	2	3	4		
管壁レベル 100mm	DⅢ+D-A形	管壁レベルⅠ 100mm				管壁レベルⅠ 80mm	
		管壁レベルⅡ 150mm				管壁レベルⅡ 75mm	
		管壁レベルⅢ 200mm				管壁レベルⅢ 100mm	
		No. 745 = 25.0	掘削方向	-2.8	0.2	3.4	-3.7
		No. 746 = 19.0	掘削方向	-0.4	-4.3	-2.2	-1.2
		No. 748 = 9.0	掘削方向	-0.5	-1.1	5.9	10.8
		No. 749 = 0.0	掘削方向	-1.1	-3.4	-3.2	0.2
		No. 747 = 89.0	掘削方向	-3.9	-3.8	-5.8	-4.4
		No. 747 = 79.0	掘削方向	0.9	-2.9	7.1	2.9
		No. 747 = 69.0	掘削方向	0.4	-8.7	3.5	2.1
No. 747 = 59.0	掘削方向	5.1	-7.9	12.5	4.2		
No. 747 = 49.0	掘削方向	-12.8	-3.4	10.3	1.8		
	平均値	-1.5	-3.3	3.6	1.4		
管壁レベル 100mm	DⅠ	管壁レベルⅠ 75mm				管壁レベルⅠ 30mm	
		管壁レベルⅡ 117mm				管壁レベルⅡ 20mm	
		管壁レベルⅢ 159mm				管壁レベルⅢ 75mm	
		No. 142 = 88.0	掘削方向	-8.0	-7.1	-9.2	-3.5
		No. 143 = 80.0	掘削方向	-2.9	-12.6	-8.9	-3.4
		No. 144 = 72.0	掘削方向	-12.4	-5.7	-13.5	-3.4
		No. 145 = 64.0	掘削方向	-5.9	-10.9	-7.4	-3.0
		No. 146 = 56.0	掘削方向	-21.3	-13.9	-24.7	-3.5
		No. 147 = 48.0	掘削方向	-8.7	-8.9	-12.8	-16.5
		No. 148 = 40.0	掘削方向	-5.7	-11.3	-12.3	-8.7
No. 149 = 32.0	掘削方向	-10.2	-5.0	-13.5	-6.9		
	平均値	-9.4	-9.1	-13.3	-8.1		

内空変位・天端沈下量平均値 比較表

	内空変位	天端沈下
DⅢ	3.6	-33.7
DⅠ	-13.3	-40.5

DⅠと比較してDⅢのほうが変位抑制されている
(マイナス方向に数値が多くなるほど変位量が大きい)

沿岸沿いの鋼橋の品質確保

■課題

海岸沿いの鋼橋で、塩分飛来による現場継手部の劣化が発生しないよう、現場施工時に配慮・実施出来る技術を求めたい

■技術提案テーマ

- ・鋼桁橋の現場継手部における品質確保のための施工上の工夫とその効果

■採用した技術提案による結果

技術提案により現場継手部(外面・内面・高力ボルト部)の防食耐久性の向上が図られた



現場継手部の腐食事例

成績による品質向上等の確認 <技術提案評価型>

○技術提案と成績を比較すると

- ・「確実な工期内完成、効率化」をテーマに設定した工事では、成績において「**工程管理**」の値がやや高い一方、「**施工管理**」はやや低い。
- ・安全確保をテーマに設定した工事では、逆に、成績での「**安全対策**」の値は低い。

○困難な工事であるからこそ、当該項目をテーマに設定した可能性もあり、成績のみで技術提案による効果を判定することは難しい。

■技術提案のテーマ設定と工事成績の関係

	評定点	施工体制			施工状況	工程管理				出来形および出来ばえ	出来形	品質	出来ばえ	工事特性	創意工夫	社会性等	法令遵守等	その他
		施工一般体制	配置技術者	施工管理		工程管理	安全対策	対外関係										
R3工事成績	79.46	6.50	3.08	3.44	28.52	10.99	7.15	7.23	3.23	31.48	11.84	12.48	7.26	4.49	4.37	3.96	-0.09	0.00
確実な工期内完成、効率化をテーマ設定（8件）	80.78	6.60	3.08	3.52	28.43	10.86	7.24	7.07	3.27	32.10	12.24	12.52	7.33	4.86	4.31	4.37	0.00	
安全確保に関するテーマ設定（11件）	79.73	6.43	3.04	3.39	28.46	11.08	7.33	6.79	3.26	32.08	12.25	12.56	7.26	5.15	4.51	3.85	-0.73	0.00

（対象）H30～R2年度S型（WTO）発注で、R3年度完了した工事（1地整）

②施工能力評価により品質向上が図られているか

背景・方向性

- 現行の総合評価落札方式へ改正した際、総合評価落札方式(施工能力評価型)は技術提案を求めない・点数化しない等、評価を大幅に簡素化した。
- 一方、現状においては、評価対象である施工能力と成果(品質)との関係性が十分に検証されておらず、施工能力評価が品質向上に貢献しているのか、制度目的の達成度が明確でない。
- このため、施工能力評価の実態について、今後データ等を元に確認していく。

③工事目的物の品質確保に向け、入札段階で技術力確認等に 受発注者共に負荷がかかりすぎていないか

背景・方向性

- 現行の手法において、成績下位の工事は減少傾向
総合評価(技術提案評価・施工能力評価)により「一定の品質確保」という目的は概ね達成しつつある可能性がある。
- 一方で、従事者が減少する建設業界においては、限られた人材で効率的な入札・契約、施工等を行うことが求められているが、現行手法は入札者・発注者双方に相応の負担を生じさせている可能性がある。
 - ・入札者が技術提案を作成するにあたり、現地確認等、過大な労力を要しているという声もある。
 - ・入札手続きの質問および回答において、多くの工事で数百問のやり取りが確認されるなど、事務手続きとして労力が大きい。
- このため、データの有効活用等により、受発注者ともに作業の簡素化・省力化・自動化等の負担軽減が図られるよう、引き続き検討する必要がある。

○総合評価落札方式について、建設業界やそれを取り巻く社会情勢の変化に応じ、これまでも簡素化等を図ってきたところ

関係する総合評価の型 技:技術提案評価型, I:施工能力評価型 I型, II:施工能力評価型 II型
簡素化の影響を受ける者 受:受注者, 発:発注者

H25 総合評価落札方式のタイプ分類を施工能力評価型と技術提案評価型に再編
(二極化)【技・I・II】【受・発】
施工能力評価は手続きを大幅に簡素化

H28 段階的選抜方式の本格運用【技・I】【受・発】
競争参加者数が比較的多くなると見込まれる工事で事業者を絞り込み

企業能力評価型の試行【I・II】【受】
技術者の能力等に係る評価を省略し企業の能力等のみで評価

R1 フレームワーク方式の適用【技・I・II】【受・発】
フレームワーク企業の選定の段階で実績や能力を評価し個別工事発注における
手続きを省略

R4 一括審査方式をガイドラインに位置付け【技・I・II】【受・発】
複数の工事において、提出させる技術資料の内容を同一のものとする
ヒアリングは必要な場合に実施【技・I】【受・発】
質問回答後の日数確保【技】【受】

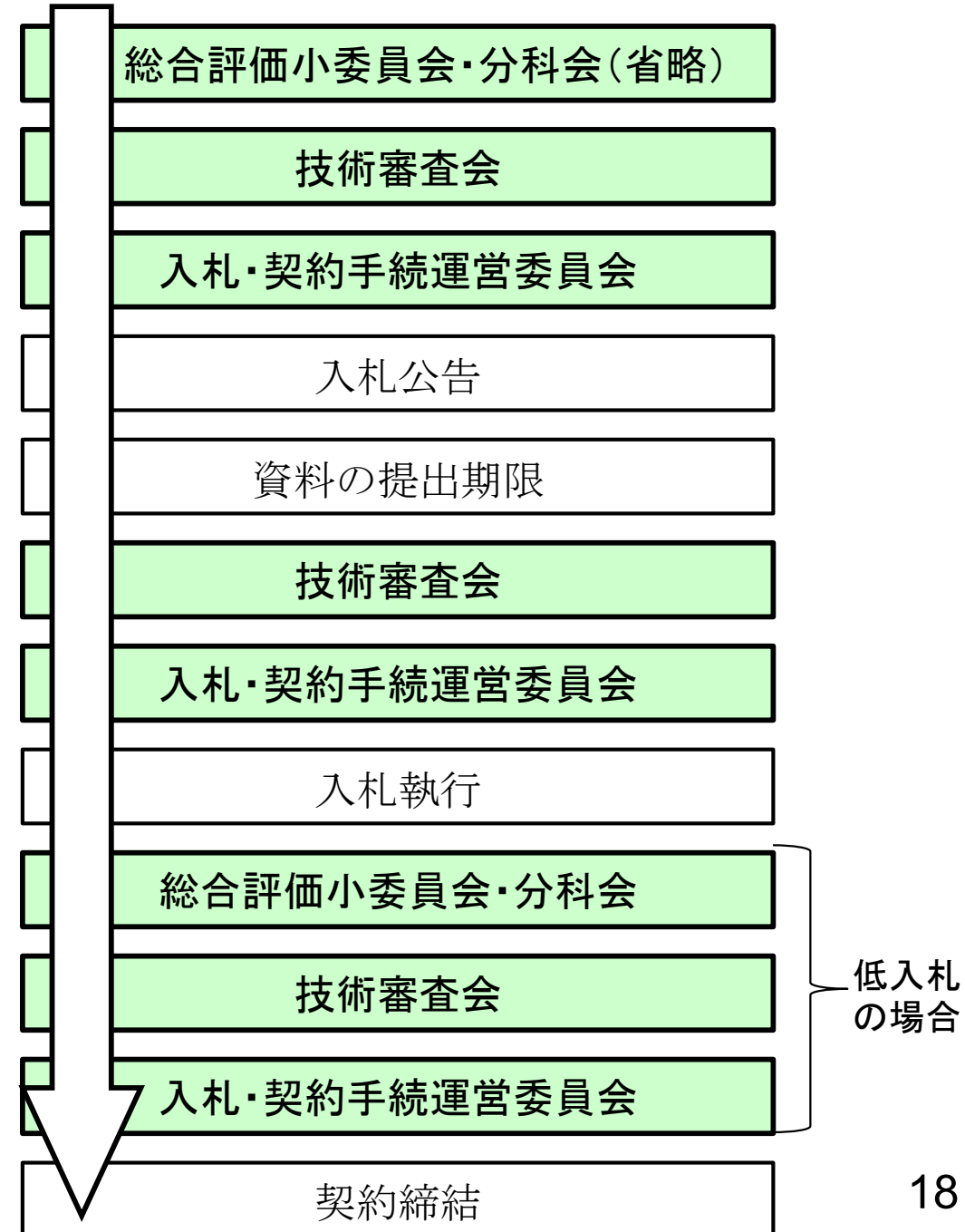
施工能力評価型Ⅱ型の契約手続きフロー ※関東地方整備局の例

- 1つの工事を契約するにあたり、最も簡素な施工能力評価型Ⅱ型においても4回の審査会・委員会が必要*。

*低入札があった場合は更に増えるケースあり

- 各会議等に幹部が10名弱・15分程度対応。事務方も資料準備等にそれ以上の時間を要する。

- 技術提案評価型等、技術的難易度がより高いタイプでは、更に多くの会議・時間を要する。



【議論いただきたいこと】

- ・総合評価落札方式で価格及び技術力を評価することにより、公共工事の品質確保に一定の成果
- ・一方、技術提案評価型、施工能力評価型、それぞれで入札者に求める内容が品質向上に寄与しているか、因果関係が明確に確認できていない
- ・総合評価による品質確保の貢献について直接的な確認が難しい中、受発注者の負荷も含め、総合評価をどのように検証・評価すべきか

【今後の分析・検討(案)】

- 技術提案のテーマの変遷について分析
- 簡素化をより進めるための手法の検討
技術者に関するデータ集約等
- 成績と品質との関係性
成績が良い工事成果物は健全性が高いのか
- 総合評価に関する受発注者向けのアンケート